

平成 1 2 年 7 月 2 1 日

最近の地震・火山活動について

1 . 有珠山の火山活動の経過と今後の見通し

(1) 活動経過

- ・ 3月27日 有珠山で地震が多発。
- ・ 3月29日緊急火山情報第1号 (11時10分) 「地震活動急速に活発化、数日以内に噴火の可能性大」
- ・ 3月30日 洞爺湖温泉から壮瞥温泉の地域で地割れ等を確認
- ・ 3月31日 北西山麓 (西山西麓) で噴火
- ・ 4月 1 日 金比羅山西麓で噴火
- ・ 現在まで、西山西麓火口、金比羅山火口で噴火継続。西山西麓を中心に顕著な隆起

(2) 今後の見通し

- ・ 深部からのマグマの供給は停止しており、一連のマグマ活動は終息に向かっている。
- ・ 懸念されていた火砕流 (火砕サージを含む) の発生はない。
- ・ しかしながら、両火口群で現在と同様の爆発が継続すると考えられることから、当分の間、火口から 500m 程度の範囲では、噴石及び地熱活動に対する警戒が必要である。

2. 三宅島の火山活動の経過と今後の見通し

(1) 活動経過

- ・ 6月26日18時30分頃から、マグマ活動に伴う地震が多発。緊急火山情報第1号(19:33)「噴火のおそれ、厳重な警戒の呼びかけ」
- ・ マグマは当初三宅島西側山腹に貫入し、その後西方海域に移動。
- ・ 27日午前、三宅島の西方海域で変色域が認められ、海底で噴火と判断。
- ・ 地殻変動は28日から鈍化し、29日にはマグマの供給はほぼ停止。
- ・ その後、7月4日頃から山頂直下で地震が観測され始め、7月5日、山頂部での活動に注意を喚起。
- ・ 8日、山頂直下の地震が増加、山体の収縮変化が加速し、同日18時41分頃に山頂で高さ800mの噴煙を観測。
- ・ 9日、現地調査で直径約1000m、深さ約200mの山頂陥没を確認。
- ・ 14日15時50分頃から、山頂火口地下で水蒸気爆発が発生。火山灰や噴石を噴出。高さ1500mの噴煙を観測。噴出物に新しいマグマ物質はなし。陥没火口の深さは300~400m。

(2) 今後の見通し

- ・ 収縮傾向が継続しており、マグマは降下していると考えられる。しかし、現在も山頂直下の地震活動及び地殻変動が観測されており、今後も水蒸気爆発が発生する可能性がある。
- ・ 当面、山頂付近では引き続き注意が必要であるが、山麓での噴火の可能性はない。
- ・ しかし、山麓での降灰、雨による泥流に注意が必要である。

3 . 三宅島及び新島・神津島近海の地震活動の経過と今後の見通し

(1) 活動経過

- ・ 三宅島の火山活動の影響により、三宅島西方海域では地震活動が活発化。
- ・ 7月1日16時02分頃マグニチュード6.4及び9日03時57分頃同6.1の地震が、新島・神津島近海で発生し、神津島で震度6弱を観測。
- ・ 15日10時30分頃、上記の震源域から北へ約20km離れた場所でマグニチュード6.3の地震が発生し、新島で震度6弱を観測。
- ・ これらの地震により土砂崩れや崖崩れ等が発生、1日の地震では死者1名の人的被害。
- ・ 20日02時32分頃に新島村式根島で震度5強を観測する地震が発生。その後、11時~12時台にかけて式根島で震度5弱を観測する地震が3回(11時19分頃、12時10分頃、12時29分頃)発生。一連の地震活動における最大マグニチュード(M)は5.1。

(2) 今後の見通し

- ・ 今後も、この地域ではM5程度の地震が発生する可能性があり、地震の発生する場所によっては強い揺れを伴うことが考えられる。

(3) 土砂災害対策

- ・ これまでの地震により地盤の緩み等が発生していることから、少量の雨でも土砂崩れや崖崩れ等の発生が懸念される。
- ・ このため、降水の状況を監視・予測し、関係機関と連携を図りながら、土砂災害の発生について警戒を呼びかける適切な気象警報・気象情報等の発表に努めている。

三宅島及び新島・神津島近海の地震活動 (平成12年6月26日~7月20日)

